

対ガイアナ無償資金協力 カリコム事務局における太陽光発電設備の引渡し式

2022年1月11日
在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1月11日、ガイアナのジョージタウンのカリコム事務局で、対ガイアナ無償資金協力である再生可能エネルギー導入及び電力システム改善計画のうち、カリコム事務局本部への太陽光発電設備の引渡し式が行われました。この事業は、18億4,800億円（約1,780万米ドル）の無償資金協力もとで実施されたもので、今回引渡した設備は約700万米ドルに相当します。

式典には、平山達夫大使のほか、モハメド・イルファーン・アリ・ガイアナ大統領、マーク・フィリップス首相、カーラ・バーネット・カリコム事務局長、アームストロング・アレクシス・カリコム事務局次長及び殿川広康JICA事務所長が参加しました。

平山大使は、日本とカリコムは価値あるパートナーシップ及び共通の課題を共有しており、日本は引き続き、防災、気候変動、コロナ禍対策等の世界的な課題につき取り組んでいる、また困難な状況下で事業を実現した関係者の努力に感謝し、日本の技術と知見が活用されることで、本事業が日・カリコムのパートナーシップを象徴する重要なものとなると強調しました。平山大使は、2月中旬に任期を終え離任するにあたり、関係者の方々への支援に感謝の念を述べました。

フィリップス首相は、本事業がガイアナ政府の電力部門を化石燃料から低炭素路線に移行することを支援するものであることを強調しました。また、本事業が、地元企業、カリコム加盟国、他の地域において再生可能エネルギーやエネルギー管理に対する認識を高める触媒となることを期待すると述べたほか、本事業の能力強化の部分に言及し、恩恵を最大限に活用、維持すると約束し、日本政府および国民への感謝の意を伝えました。

アリ大統領は、パートナーシップ、技術革新、効率性につき、この事業の価値を認め、カリブ地域が再生可能エネルギーに真剣に取り組んでいることを示すものである、ガイアナは再生可能エネルギーを推進していく用意ができていると述べました。また、カリブ地域が気候変動の影響に対して脆弱であることを強調し、支援国に対し、緩和策と適応策を推進する技術を向上させるためにこの地域に積極的に展開するよう促しました。アリ大統領は、平山大使のカリブ海地域での貢献に感謝した後、非常に困難な状況下でプロジェクトを実施したすべての関係者に謝意を表明しました。

式典の様子は、ユーチューブ及びフェイスブックで生中継され、多くの視聴を得ました。

日本政府は、今後ともカリブ各国との友好関係と相互理解を促進し、小島嶼国特有の脆弱性の克服を図るため、防災、環境、エネルギー、廃棄物管理及び水産分野に対する支援を実施していく考えです。

お問い合わせ

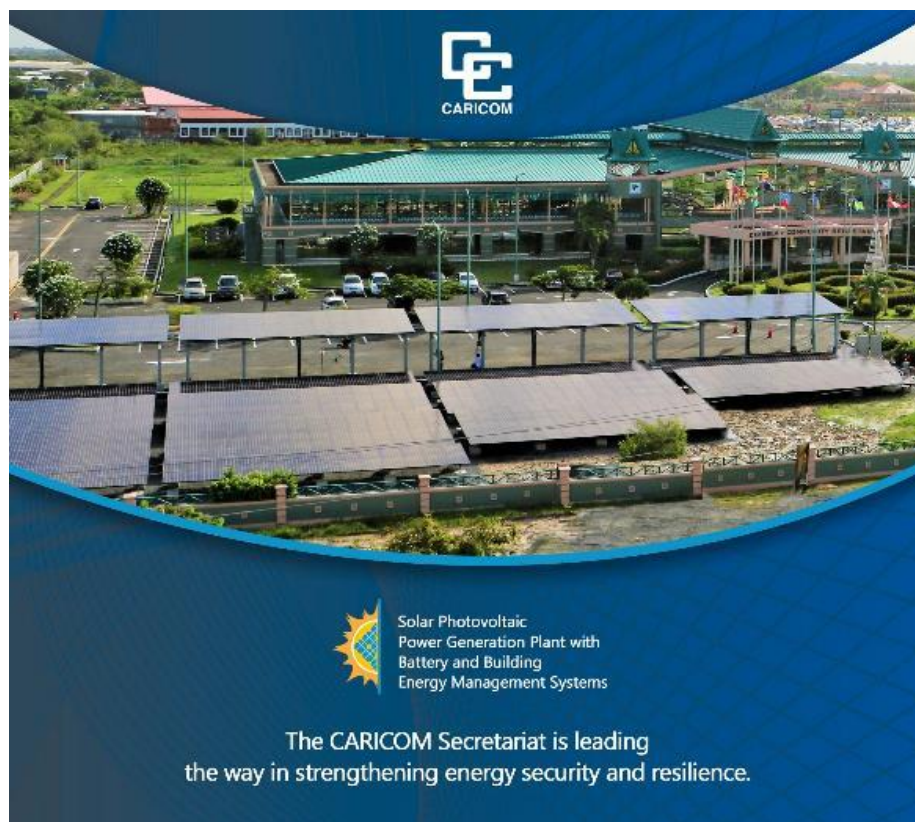
在トリニダード・トバゴ日本国大使館

経済・開発協力班

Tel: +(1-868)-628-5991/5992

E-mail: ecocoop@po.mofa.go.jp

太陽光発電設備とカリコム本部



Overview of the installation of Solar Photovoltaic Panels

<https://www.facebook.com/caricom.org/photos/a.563198893792354/4671066086338927/>

式典の様子



バーネット・カリコム事務局長



殿川 JICA セントルシア 所長



平山大使挨拶



フィリッパス首相挨拶



アリ大統領挨拶



平山大使とアリ大統領による記念碑除幕式



設置されたソーラーパネル



日本人専門家による来賓への説明